

2/24(土) アフタートーク 上映後、わすれん!参加者とゲストの方々によるトークを行います

10:00—『関上のさぐば×ペルーのカバリト』

林剛平 (歎藍社)
原発事故調査の際に見る東北各地での景色や食文化、手仕事の記録をはじめ。福島県大玉村にて、震災後の里山を探索する歎藍社を仲間と立ち上げる。2016年よりわすれん!に参加。2017年、自身撮影の記録映像『小国春熊狸2016』が山形国際ドキュメンタリー映画祭にて上映される。

上原啓五 (ランドスケープアーキテクト)
1948年青森県生まれ。技術士(都市および地方計画)。(株)作庭舎代表取締役。貞山運河研究所理事。庭園、公園、まちづくりを歴史や伝統を大切に、先人たちへの敬意を払いながら、世界中の建築やアートを積極的に解釈し、感性を刺激する固有のデザインを行っている。仕事：円通院、天守閣自然公園など。

17:15—『根をほぐす』+『In-Field Studioの試み -大地からHumanityを組み立て直す-』

小森はるか (映像作家)
東北で暮らす方たちのことばを残し伝えたいという思いから被災地の映像記録をはじめ。2011年よりわすれん!に参加。2012年より画家で作家の瀬尾夏美とともに岩手県陸前高田市に移住。2015年からは仙台を拠点とし、一般社団法人NOOKを仲間と立ち上げる。2017年、監督作『息の跡』が劇場公開される。

佐藤研吾 (建築家/歎藍社)
インド・ベンガル地方で工作を通して大地と人間生活の関係を探索する国際建築学校In-Field Studioを主宰。東京では建築設計を生業とする傍ら、江戸・明治の時代の転換期の都市における動物と空地そして社会システムの連関を研究。福島県大玉村で藍の栽培と染めの作業から震災後の里山の風景を描く歎藍社を仲間と立ち上げる。

進行 **成瀬正憲** (山伏/日知舎)
2009年より山形県鶴岡市在住。出羽三山で山伏修行を重ねながら、山麓住民に採集文化や手工芸の技法を学び、自ら制作・流通事業を行い、土地の文化の今日的展開を探究する日知舎を運営。知的生産を地域化させ、人間的なものを異化させる活動を行っている。

2/25(日) 対話の場「相馬クロニクルダイアログ」シアターでの上映後、プロジェクトルームへ場所を移してゲストと来場者を交えての対話を行います

18:10—『福島県立相馬高校放送局制作映像作品』+『FUKUSHIMA: The silent voices』

佐藤千穂 (映像作家)
1985年福島県福島市生まれ。2007年から映像プロダクションに勤務。2010年に渡仏。映像プロダクションやコーディネイト会社に籍置き、ビデオや番組制作に参加する。現在は帰国し、同志であり夫のルカ・リュとタッグを組み制作活動が続ける。フランス社会と日本社会のギャップにインスパイアされ創作する。

ルカ・リュ (映像作家・カメラマン)
フリーランスとして60を越える映像作品に監督、カメラマン、照明、撮影監督、グラフィストなど、様々な職種で関わる。2008年にフランスからニューヨークへ渡り、スーザン・パトソンからアクティヴのコーチングを受ける。現在は若手俳優の育成にも力を注ぐ。2013年、映像プロダクションNautéin Prodを仲間と立ち上げる。

進行 **渡部義弘** (相馬クロニクル)
2015年より相馬クロニクルを立ち上げ、相馬高校放送局の映像作品上映会を全国各地で開く。2017年よりわすれん!参加。対話の場「相馬クロニクルダイアログ」を本上映より開始。高校生によってつくられた相馬高校放送局の映像作品に込められた思いから、原発事故や人々の暮らしについて考え、その声を残す活動を行っている。

3がつ11にちをわすれないためにセンター

せんだいメディアテークが、市民、専門家、アーティストと協働し、震災とその復旧・復興のプロセスを独自に記録・発信していくため、2011年5月3日に始めたプラットフォームです。参加者は、個人個人が体験した震災を映像、写真、音声、テキストで記録します。それらの記録は、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として整理・保存され、さまざまな形で活用されています。http://recorder311.smt.jp

2/25(日)

10:00 小国春熊狸2017 (100分) **託児あり** **山形**

12:40 福島の写真+β (9分) **福島**

13:05 バンテジーから3.11後の東北へ (54分) **インド**

14:15 小さな藍祭り (30分) **福島**

15:00 Tango Karamarito (69分) **福島**

16:30 福島県立相馬高校放送局制作映像作品 (25分)
緊急時避難準備不要区域より/Girls Life in Soma/相馬高校から未来へ **福島**

16:55 FUKUSHIMA: The silent voices (58分) **福島**

18:10 対話の場「相馬クロニクルダイアログ」佐藤千穂×ルカ・リュ×渡部義弘

の地名は映像の撮影地またはテーマとなっている地域を表します。

託児あり のついているプログラムでは託児サービスを行います。

【受付・託児場所】 2階託児室(申込不要、直接お越し下さい)

【受付時間】 各回ともに30分前より

【定員】 6名(先着順)※乳児が多い場合は受入れ可能人数が定員よりも少なくなる場合があります。

【対象年齢】 生後6ヶ月～未就学児まで

【持ち物】 着替え、替えのおむつと持ち帰り用ビニール袋(おむつ使用の方のみ)、ミルク・お湯(授乳中の方のみ)、マグ

※当日、体調の悪いお子様はお預りできません。

※プログラム終了後はすみやかにお子様のお迎えをお願いします。

主催・問い合わせ

3がつ11にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1

tel 022-713-4483 fax 022-713-4482

mail office@smt.city.sendai.jp



この用紙はリサイクルできます。

星空と路 上映室★

— 暮らしの行き先 —

3月11日の星空から7年が過ぎようとしています。

「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の参加者は、技術や経験の有無にかかわらず、震災にまつわる様々なことがらを記録してきました。

そこには震災による被害の状況や変わりゆく地域の姿だけでなく、参加者一人ひとりの想いや言葉が映し出されています。

今回の上映室は「暮らしの行き先」と題しています。

地域の復旧・復興が進む一方で、

そこにあった暮らしの不安が見えにくくなる今、

私たちがこれから歩いていく道のりについて、

ご来場いただいたみなさまと共に考えるきっかけとなればと思います。

2018年

2/24(土) 25(日)

せんだいメディアテーク

7Fスタジオシアター

入場無料 申込不要 出入自由